

多くの尊い命、住み慣れた街並み、そして私たちの大切なものを一瞬にして奪い去った阪神・淡路大震災から、23年が経ちました。

震災により無念にもお亡くなりになられました方々に、心より哀悼の誠を捧げます。

23年前のこの日から歳月が経ち、震災を知らない市民が増えていくなかで、震災から得た経験や教訓を、いかに次の世代に継承していくか、という課題に引き続き取り組んでいきます。

「東日本大震災」をはじめとする地震や、大型台風による水害など、各地で自然災害が発生しており、近い将来には南海トラフ巨大地震の発生も予測されています。私たちは、常に災害と隣り合わせにあることを痛感すると同時に、災害に強い都市づくりをすすめます。

国内外から寄せられた多くの皆さまからのご支援と市民の力で、神戸のまちは復興し、震災で非常に大きな被害をこうむった神戸港も、昨年開港150年を迎えました。私たちは感謝の気持ちを忘れることなく、神戸をさらなる高みに押し上げていくとともに、自らの経験を活かし、防災・減災・安全・健康などの分野で、他の都市や地域に貢献し続ける都市であり続けます。

最後になりましたが、震災でお亡くなりになられました皆さまに重ねて哀悼の意を表しまして、私の追悼のことばといたします。

平成30年1月17日

神戸市長 久元 喜造